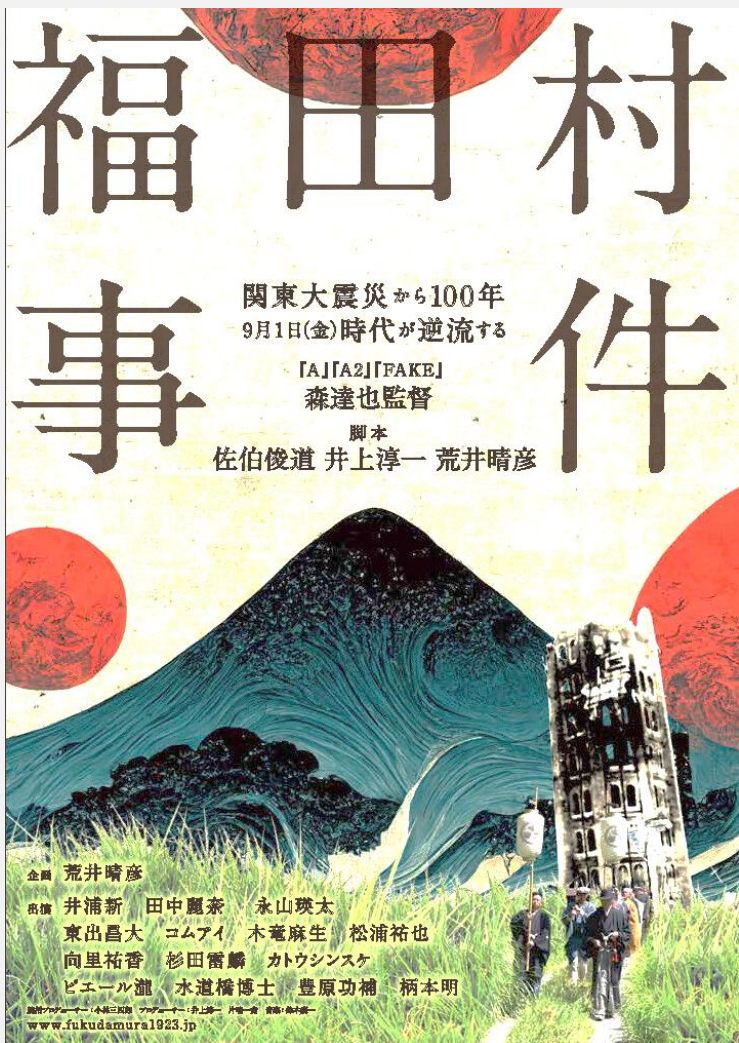


大津市人権講座

～夏の上映会～



日時

令和7年 8月27日(水)

受講料無料

14:00～16:00

(事前申込制)

会場

大津市生涯学習センター大ホール

大津市本丸町6番50号

※来場者の駐車場は用意しておりません。公共交通機関をご利用ください。

申込
方 法

お名前、ご住所、ご連絡先を、電話、FAX、メール、
二次元コードのいずれかでお伝えください。



申込先

大津市教育委員会事務局生涯学習課

電話 528-2635 FAX 523-5735 E-mail otsu2403@city.otsu.lg.jp

共催 大津市「人権・生涯」学習推進協議会連合会・大津市教育委員会

1923年9月1日
11時58分、
関東大地震が発生した。

ストーリー

大

正デモクラシーの喧騒の裏で、マスコミは、政府の失政を隠すようにこぞって「いずれば社会主義者か、鮮人か、はたまた不逞の輩の仕業か」と世論を煽り、市民の不安と恐怖は徐々に高まっていた。そんな中、朝鮮で日本軍による虐殺事件を目撃した澤田智一（井浦新）は、妻の静子（田中麗奈）を連れ、智一が教師をしていた日本統治下の京城を離れ、故郷の福田村に帰ってきた。同じ頃、沼部新助（永山瑛太）率いる葉売りの行商団は、関東地方へ向かうため四国の讃岐を出発する。長閑な日々を打ち破るかのように、9月1日、空前絶後の揺れが関東地方を襲った。木々は倒れ、家は倒壊し、そして大火災が発生して無辜なる多くの人々が命を失った。そんな中でいつしか流言飛語が飛び交い、瞬く間にそれは関東近縁の町や村に伝わっていた。2日には東京府下に戒厳令が施行され、3日には神奈川に、4日には福田村がある千葉にも拡大され、多くの人々は大混乱に陥った。福田村にも避難民から、朝鮮人が集団で襲ってくる「朝鮮人が略奪や放火をした」との情報もたらされ、疑心暗鬼に陥り、人々は恐怖に浮足立つ。地元の新聞社は、情報の真偽を確かめるために躍起となるが、その実体は否としてつかめないでいた。震災後の混乱に乗じて、亀戸署では、社会主義者への弾圧が、秘かに行われていた。

イントロダクション

関

東大震災の発生からわずか5日後の9月6日のこと。千葉県東葛飾郡福田村に住む自警団を含む100人以上の村人たちにより、利根川沿いで香川から訪れた葉売りの行商団15人の内、幼児や妊婦を含む9人が殺された。行商団は、讃岐弁で話していたことで朝鮮人と疑われ殺害されたのだ。逮捕されたのは自警団員8人。逮捕者は実刑になったものの、大正天皇の死去に関連する恩赦ですぐに釈放された。これが100年の間、歴史の闇に葬られていた「福田村事件」だ。行き交う情報に惑わされ生存への不安や恐怖に煽られたとき、集団心理は加速し、群衆は暴走する。これは単なる過去の事件では終わらない、今を生きる私たちの物語。

100年の時を超え、
遂に、実話に基づいたかつてない
日本映画が公開される。



企画：荒井晴彦 企画協力：辻野弥生、中川五郎、若林正浩 総括プロデューサー：小林三四郎 プロデューサー：井上淳一、片嶋一貴 アソシエイトプロデューサー：内山太郎、比嘉世津子 音楽：鈴木慶一 撮影：桑原正
照明：豊見山明長 録音：白井勝 美術：須坂文昭 装飾：中込秀志 衣裳：真柴紀子 ヘアメイク：清水美穂 編集：洲崎千恵子 助監督：江良圭 スチール：佐藤芳夫 メイキング：綿井健陽 美術監修：磯見俊裕
キャスティング：新井康太、東山光宏 クラウドファンディング・寄付：越智あい 宣伝：山口慎平 大阪宣伝：松井寛子 宣伝デザイン：100KG 特別協力：真宗教団連合 集英社 協力：東映京都撮影所 松竹撮影所 モノポライズ
©スバル 文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会 釜山国際映画祭 NUTRILITE Award ■NUTRILITE A・P・M
This film won the NUTRILITE Award at the Asian Project Market 2023 of Busan International Film Festival. 【2023年 | 日本 | DCP | 英語 | SEPTEMBER1923 | 5.1ch | 137分】
©「福田村事件」プロジェクト2023 配給：太秦 製作プロダクション：ドッグシュガー 製作：「福田村事件」プロジェクト（株式会社アンカレッジ、株式会社カタログハウス、辻野弥生、株式会社ビカンテヤカス、MBS、株式会社ドッグシュガー、太秦株式会社）

PG12
124008